

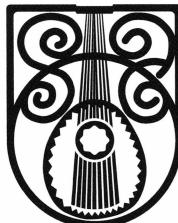
オルケストラ シンフォニカ 東京

第 64 回

定期演奏会

2024 年 4 月 14 日（日）午後 2：00 開演

第一生命ホール



O S Tについて

O S Tの活動は大きく3つの時代に分けられます。

第1の時代は1915(大正4)年に武井守成^{*1}がシンフォニア・マンドリニ・オルケストラ(1923(大正12)年オルケストラ・シンフォニカ・タケヰと改称)として楽団を創設したことに始まり、多くのマンドリン曲を紹介し、合奏コンクールや作曲コンクールを実施するなど斯界をリードしました。1949(昭和24)年武井氏逝去により活動は次第に終息していき、1958(昭和33)年に解散となりました。この間57回の演奏会が開催されました。

第2の時代は武井氏ご遺族より貴重な武井文庫の蔵譜と楽器を譲り受けた杉田村雄^{*2}が理事長として1959(昭和34)年にオルケストラ・シンフォニカ・タケイを復興し、始まりました。杉田氏が支配人を務めていた日比谷皇居前の第一生命ホールを会場に毎年の演奏会を重ね、またその場ではギターの優秀な作品に贈られる武井賞の受賞作品も演奏されました。1986(昭61)年の杉田氏逝去に伴い、翌1987年開催の追悼の意を込めた演奏会(定期28回目)で幕を閉じます。

第3の時代は残された団員の合議により幹事制の下で民主的に運営することが決められ始まります。その際に杉田氏ご遺族よりマンドローネ・リュート・セロなどの楽器と杉田氏が収集した楽譜を団として譲り受けました。武井文庫は、当時日本マンドリン連盟理事長でO S T団員でもあった市毛氏のご尽力で国立音楽大学図書館に寄贈されました。また、武井氏ご遺族より楽団名「O S タケイ」の改称のご要望があり、それに従い「O S 東京」と改称して、1988(昭和63)年の定期演奏会(第29回)を開催しました。これが現在へとつながります。

本日は杉田氏が復興した演奏会より64回目となります。毎回定演後の最初の活動日に総会が開かれ、すべての事項を決定します。任期2年の幹事団が代表幹事を中心に通常の運営を担当します。指揮者は現在会員の互選によって選ばれています。練習日は杉田氏の時代より毎月第2日曜で固定していて、新加入に関しては団員の了解の下で隨時受け入れています。

*1) 武井守成(たけい もりしげ: 1890年10月11日~1949年12月14日)

枢密顧問官武井守正の二男として鳥取に生まれる。宮内省楽部長・式部官長、男爵。

マンドリン合奏団『オルケストラ・シンフォニカ・タケヰ』(O S T)を主宰し、マンドリン合奏曲・ギター独奏曲の作曲家として活動。また雑誌『マンドリンギター研究』を発刊し、1923年にマンドリン合奏コンクール、1924年に作曲コンクール、1927年にはマンドリンオーケストラ作曲コンクールを開催してマンドリン・ギター音楽の発展に尽力した。

*2) 杉田村雄(すぎた むらお: 1903年2月14日~1986年7月17日)

八王子・南多摩郡多摩村の村医杉田武雄の長男として生まれる。

暁星中学時代、クラスメートの斎藤秀雄とともに比留間賢八に師事、2人で暁星マンドリン倶楽部から静美社音楽部へと音楽活動を進める。

1939年O S Tに入団。戦時中、武井守成氏の多摩村東寺方への疎開に尽力し、音楽関係楽譜・資料も戦火を免れる。

武井氏逝去後、O S Tの再興にあたり理事長および指揮者を務める。武井氏の楽譜出版に尽力。日伊音楽協会理事長、日本マンドリン連盟副会長を歴任し斯界に貢献された。

❖ プ ロ グ ラ ム ❖

第一 部 指揮：嶋 直樹

1. 劇音楽「エグモント」より「序曲」

L. V. ベートーヴェン（嶋 直樹編）

2. スラヴ舞曲 第6番

A. ドヴォルザーク（嶋 直樹編）

3. ハンガリー舞曲 第1番

J. ブラームス（嶋 直樹編）

4. 夕雲

武井守成

第二 部 指揮：石 井 啓 之

1. 秋雲（ギター独奏 演奏：小林 透） 武井守成

2. 竹取物語 貴志康一（石井啓之編）

3. 夢の桃太郎 山田耕筰（中野二郎編）

4. 交響的間奏曲 グラウコの悲しみ A. マツツオーラ

《 休憩 20分 》

第三 部 指揮：山 本 雅 三

1. 組曲 エジプトの幻影

1. 舞踏 2. スフィンクスの伝説 3. ナイル河にて
J. D. ミケーリ（中野二郎編）

2. オレンヂのホタ

武井守成

3. アルハンブラの思い出（ギター独奏 演奏：小林 透） F. タレガ

4. 大幻想曲 ムーアのグラナダ

1. 前奏曲 2. ボアブディル王のグラナダへの決別 3. アラビア風セレナード
M. M. ガルシア

ううしー
かわ

曲 目 解 説

第一 部

劇音楽「エグモント」より「序曲」

L. V. ベートーヴェン（嶋 直樹編）

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770年～1827年）が1810年にゲーテの戯曲のために作曲した劇音楽で、本来はこの「序曲」を含め10曲からなっています。現在はほぼこの序曲のみが演奏されるようになりました。劇の題材は16世紀のフランドルの軍人、政治家であったラモラール・ファン・エフモントの英雄的生涯を題材とした物語です。

スラヴ舞曲 第6番

A. ドヴォルザーク（嶋 直樹編）

アントニン・レオポルト・ドヴォルザーク（1841年～1904年）は、第1集、第2集と2つのスラヴ舞曲集を作曲していますが、今回演奏する曲は第1集の第6番です。ブラームスの「ハンガリー舞曲集」の成功を受け、ドヴォルザークに同様の舞曲集の作曲が依頼されました。当初ピアノ連弾曲として作られましたが、ほぼ同時期に作曲者本人により管弦楽曲に編曲され大評判となりました。

ハンガリー舞曲 第1番

J. ブラームス（嶋 直樹編）

ヨハネス・ブラームス（1833年～1897年）はハンガリーのジプシー音楽を収集し編曲、全21曲からなる編曲集を作り上げました。これらは編曲のため、作品番号はつけられていません。これらも上記「スラヴ舞曲集」と同様にピアノ連弾用に作られたものを作曲者などの手によって管弦楽用に編曲されました。本日演奏する第1番は本人による演奏がエジソンの蓄音機に録音され史上初のレコーディングとなっているようです。

(参考 : Wikipedia)

夕雲

武井守成

O S T創立者である武井守成（1890年～1949年）により1931年（昭和6年）に作曲されO Sタケヰ第30回の演奏会で初演されました。初演に先立ち、「『夕雲』は夏の夕、西の空に現われた雲の遅々として、しかもなにやら強く鋭い感じのする動きの感情表現であるが、私の感覚が充分には表現されず甚だお恥ずかしい次第である」とマンドリンギター誌投稿の文章に書かれています。

(文責 嶋)

第二部

秋雲

武井守成

武井守成（1890年～1949年）が、1942年（昭和17年）に作品番号71番のギター独奏曲として作曲しました。この曲に関して武井は、「秋の晴れた空に浮く雲は美しきなごやかである。この心を舞曲として書いた。」と述べています。

竹取物語

貴志康一（石井啓之編）

貴志康一（1909年～1937年）は、16歳でヴァイオリニストとしてデビューし、数度のヨーロッパ留学を通じて音楽の研鑽に努め、演奏家、指揮者、作曲家として活躍しました。この曲は、1934年にドイツで出版された、「ヴァイオリンとピアノのための作品」の第3曲です。第61回演奏会では第1曲の「月」を演奏しました。この作品は、喜志の作品の中でもよく演奏されるもののひとつです。本日は、マンドリンオーケストラ用に編曲して演奏します。

夢の桃太郎

山田耕筰（中野二郎編）

山田耕筰（1886年～1965年）が、1921年頃に作曲したピアノ独奏曲で、おとぎ話『桃太郎』をテーマとした組曲となっており、夢路、流の桃、誕生の喜び、森のたわむれ、鬼ヶ島、凱旋の6曲で構成されています。マンドリンオーケストラ用に中野二郎が編曲しました。1942年（昭和17年）5月25日、東京神宮外苑の日本青年会館でオルケストラ・シンフォニカ・タケキの演奏会で上演されており、それがマンドリン版の初演でしょうか。OSTとして約80年ぶりの再演となります。本日は指揮者の説明を交えながらお送りします。

交響的間奏曲 グラウコの悲しみ

A. マツツオーラ

Angelo Mazzola（1887年～1974年）が1951年にイタリアのベルガモで発行しました。1965年（昭和40年）に同志社大学マンドリンクラブが日本で初演しました。

グラウコスについてはギリシャ神話に次のような話があります。
『漁師のグラウコスは、スキュラという美しい少女に恋をしたがなかなか成就しなかったため、彼は旧知のキルケーを訪ね、キルケーの魔法の力でなんとかスキュラの心を自分の方に向わせてくれないかと頼み込みました。しかしキルケーはグラウコスに好意を持っていたためスキュラの事を嫉妬し、スキュラを醜い化け物に変えてしまいました。それを見たグラウコスはスキュラのあまりの醜さに嘆き悲しみ、自らの行いを後悔しました。』（オザキ譜庫解説より）

（文責 石井）

第三部

組曲 エジプトの幻影

J. D. ミケーリ（中野二郎編）

作者のジュリオ・デ・ミケーリ（1899年～1940年）は、イタリアの作曲家、ヴァイオリニスト、指揮者で、本曲は彼の代表作の管弦楽曲。エジプトとイタリアの交流を反映し、古代エジプトの舞踊や神秘的な雰囲気を表現しています。マンドリン界の巨匠・中野二郎（1902年～2000年）編著の「マンドリン古典合奏曲集第11集」に収録・出版されています。そこに添えられた中野二郎の文章をご紹介します。

エジプトはナイル河流域を中心に世界最古の文明が栄えたところ。

第一楽章 舞踊

この舞踊は 1. 古代の天文学で説いているように星座の運動模倣である儀式的か宗教的舞踊。2. 人生の情熱、その劇的か歴史的の表現である恋愛或は闘争の舞踏。3. 動物的な祖先の信仰の対照であった動物の運動の物真似或はその模倣舞踏の三つがあると云われるが本曲はそのいずれに当たるのであろうか。単調なリズムとムーア風音階に特徴がある。

第二楽章 スフィンクスの伝説

スフィンクスはギリシャ神話の怪物で人面獅子身。通行人に「朝は四脚、昼は二脚、夜は三脚で歩く動物は何か」という謎をかけ解けない者を殺していたが、オイディップスによって「人間である」と解答され、海に身を投じて死んだという。エジプトのギザのピラミッドを守護している巨大な石像のスフィンクスはこの話を知らないでもそれ自身神秘である。

第三楽章 ナイル河にて

世界第三位の大河。遠くビクトリア湖とターナ湖に源を発し、長途の砂漠地帯を貫流し、地中海に注ぐ大三角州と長い流域は世界最古の文明の発祥地であり、数々の歴史を秘めている。喧騒の表現はその市場風景でもあろうか。

中野二郎

オレンヂのホタ

武井守成

1948年（昭和23年）、武井守成の最晩年頃の作曲。「組曲くだもの舞曲」葡萄のミヌエット、桜んぼのポルカ、柘榴のボレロ、苺のパヴァーナに続く第5曲。ホタはスペインの3拍子の熱情的でリズミカルな舞曲です。1949年（昭和24年）11月6日の旧OSTの終戦後復活第1回（通算59回）演奏会で武井の指揮で発表されました。武井はその約1ヶ月後の12月12日の練習中に指揮台上で倒れ14日に急逝しました。

アルハンブラの思い出

F. タレガ

スペインの作曲家・ギタリストのフランシスコ・タレガ、1896年作曲のギター独奏曲。ギターのトレモロ奏法が印象的です。アルハンブラとはグラナダ東方の丘に建つ、スペインにおける最後のイスラム政権の美しい宮殿の名前で、アラビア語で「赤い城」を意味します。

大幻想曲 ムーアのグラナダ

M. M. ガルシア

中世のスペインはイスラム教徒（ムーア人）が支配していました。やがてキリスト教徒の国土回復運動による1492年のグラナダ陥落によってイスラム教徒はアフリカへ追いやりれていきます。この史実を元に作曲され1924年にフランスで出版、翌1925年（大正14年）10月に旧OST第18回定期演奏会で演奏されています。そのときのプログラムに載った当時35歳の武井の解説を転載します。

（文責 山本）

グラナダの最後の王ボアブディルは、祖先から継承したその王国を見棄てねば成らなくなつて、パテュール山嶺（サンテン）に立つた。この山上からは、長い間自分の君臨したグラナダも、又今自分を攻め逐（オ）ふて居るカスティラの王女イサベラ及びアラゴンの王子フェルディナンド等が陣営たりしそニールも、更に又今から自分の逃れ行くアフリカへつらなる海も見える。彼は思はず涙を落とした。

而も此處彼処に回教徒の墓のしるべとなる扁杉（シブレ＝糸杉）の森を眺めては、更に新たな悲しみを覚えるのであった。母なる皇后（シュルタン）エイザはボアブディルを此地まで送つて来て云つた。「男らしく此王国を譲り得なかつた汝は、今こそ女の如く悲しめ」と。

かくて王と運命を共にするムーア人はアフリカに四散した。然しながら楽園グラナダは永久に彼等の記憶から去らず、乳房にすがる嬰児にも其母はグラナダの名を繰り返し教えたのである。

此幻想曲は十五世紀末の此悲劇を題材として、ガルシアの書いたものである。

冒頭十八小節の「前奏曲」は戦つて敗れ、更に又起たんとして遂に起つ能はざりし悲惨な運命を暗示する。

そして直ちに「ボアブディル王の決別」に入る此部分が、此曲の描写上の骨子となって居る事は云う迄もない。

次の「アラビア風小夜曲」は中音部に主旋律をもたせ、高音部を巧妙にあしらつて、凡化すべきところに生命を与へたのが注意すべきである。

最後の「舞曲と終曲」はリズムとテンポの変化で此曲の終りを結ぶべく作者の努力の跡が窺われる。そして其終曲には「前奏曲」のすべてが再び繰返されるが、之は恐らく、ムーア人のグラナダ回顧及之を回復せんとする意氣を示したものであらう。總じて此曲には其手法に於ても構想に於ても、格別取立てゝ云うべき新らしさを見出す事が出来ないに拘らず、細心の注意と美くしい情操とを以て凡庸を凡庸として終らしめなかつた処に、作家の苦心と力とが認められる。

更に又東洋風旋律をしきりに逐（オ）ふ欧洲作家の最近の嗜好を示す一例證としても興味あるものであらう。

武井守成

[作家からヴァイオリニスト アムバリト・ペレスに贈られ昨年（1924）12月仏国で出版された。]

《第65回定期演奏会のお知らせ》

2025年4月13日（日）14:00開演 第一生命ホール（晴海・トリトンスクエア）

出 演 者

指 挥 者： 山本 雅三 嶋 直樹 石井 啓之
 コンサートマスター： 田中 尊子 小松崎美奈子

第一マンドリン： 田中 尊子 内野 典子 高嶋 明美 高橋眞理子 本間 輝樹
 ☆小松崎美奈子 大口 千秋 高嶋 淳 田島 明子

第二マンドリン：☆宮崎 俊行 岩崎 宏子 肥沼 邦治 小林 悅子 中村 順子 渡辺かおる
 高嶋 友美 木村 栄子 後藤 俊明 鈴木 園子 水落 恵子

マンドラテノール： 金勝 溪子 伊藤 安子 後藤 成子 滝田ふさ子
 高嶋 典子 小谷 文子 高橋 新次 ★鈴木 売靖

ギ タ 一： 小林 透 岩城 納 船崎 薫 山崎 豊
 原島 美歩 澤田 行雄 戸次 僕 ☆山本 雅三

リュートモデルノ：☆嶋 直樹 小穴 雄一 ☆石井啓之（代表）

マンドロンチェロ：澤田 理恵 安達 直之 小川眞寿美

マンドローネ：★加藤 純 ★山口 敦

コントラバス：石黒不二夫 ★樺澤とも子 ★清水 威志

フルート：★松尾 圭子

クラリネット：★久松 韶子

ピアノ：★浦畠 晶子

打 楽 器：★飯野 晶子 ★成末 香里

（★=賛助奏者 ☆=幹事）



ご意見、ご感想

・この演奏会に関するご意見、ご感想をお聞かせください。左の QR コードから
お願いします。



過去の演奏画像

・過去の OST の演奏画像をごらんになります (YouTube)。右の QR コードから
どうぞ (音が鳴りますので、演奏中のアクセスはご遠慮くださいませ)。

連絡先：石井 啓之 E-MAIL : hi@ishii164.net ホームページ : http://ostokyo.info/
